



日本温泉科学会第 65 回大会

特別講演 1

北海道の植物エネルギー
—気・食・薬—

堀 田 清¹⁾

Plants Energy of Hokkaido
—Cosmic Energy, Foods, Herbal Medicines—

Kiyoshi HORITA¹⁾

要 旨

地球上から植物たちがいなくなったらあらゆる有機生命体は絶滅する。これは科学で証明するまでもない絶対真理です。漢方の基本的な概念である「気」とは「目に見えない万物の根源的なエネルギー」のことであり、「先天の気」と「後天の気」にわけられます。「後天の気」には、「天空の気」と「水穀（大地）の気」があり、この二つの気が合わさって「元氣」が生まれます。従って、植物たちこそが目に見える地球の元氣であり、これを私は「植物エネルギー」と名付けます。北海道は手つかずの自然が残る希少な大地です。植物たちの生み出す「気」（植物エネルギー）は、清流に乗って平地に運ばれ、さらに川を下って海にそそがれます。従って北海道で生産される農業生産物、海産物は植物の作り出した「気」の塊です。またそれを食べている人間の創意工夫により生まれた加工品も素晴らしいものがあります。

心身一如は漢方の基本です。しかし、現代科学は身体と心を切り離して考えます。科学を基盤とするこの物質文明社会ではうつ病の人が増え、「心を元氣にするクスリ」が求められる時代です。「心を元氣にするクスリ」とは「大地に流れる生命エネルギー『気』を目、耳、口、鼻、肌の五官を通して能動的に取入れること」です。漢方では「気の巡り」を良くしてくれる薬のことを理気薬といいます。北海道の大地は理気薬そのものといえます。

1. はじめに

「植物エネルギー」は、北海道内に生きる植物たちに会いに行くうちに私の中に生まれた直観、「地球に生きるすべての生命の元氣の源は、植物たちである」を表現した言葉です。私が植物たちから

¹⁾北海道医療大学薬学部 〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757. ¹⁾Faculty of Pharmaceutical Sciences, Health Sciences University of Hokkaido Medicinal Botanic Garden, Northern Ecological Garden, 1757 Kanazawa, Tobetsu-cho, Ishikari-gun, Hokkaido 061-0293, Japan. E-mail maruho@hoku-iryu-u.ac.jp, TEL & FAX 0133-23-3792.

もらった「生きる勇気と元気」、それが「植物エネルギー」です。

「地球上から植物たちがいなくなったらあらゆる有機生命体は絶滅する」、これは科学で証明するまでもない絶対真理です。今、人間の限度無き欲によって、地球上から植物たちがものすごい勢いで減っています。



図 1 地球環境の悪化

これは地球全体の「元気」が減少し、地球そのものが病気になっていることを意味します。病んでいく地球に病んだ人が増えていくことは当然のことです。そして起こったのが2011年3月11日、福島原発事故です。私の愛する日本の大地がさらに汚されてしまいました。福島第一原発事故は、私たち人類の過ぎたる我欲の暴発が具現化した事故とも言えるのではないのでしょうか。

今こそ私たち一人一人の心の中にある過ぎたる我欲を減らし、地球全体をステキにしたいと思う人が増えなければならない時代になったのだと思います。

地球に生きる植物とは、地球の元気の源であり、私たち人類に生きるための食物を始めとするありとあらゆるものを提供してくれる源でもあります。さらには精神的にも、国、言語、宗教の違いを超えて、地球上の全ての人にとって等しく重要で、人類の心の中に愛を生むことのできる唯一可能性のあるものだと私は思います。

身近な植物たちに関心を持つ人が増え、植物たちを愛する人たちが増えれば、自分を生かしてくれている地球上のすべての存在への想像力が芽生え、自分さえよければという考えが減って、人類全体の心が豊かになり、植物が増え、地球環境が良くなり、世界が平和になる……。北海道がこのストーリーを具現化できる大地であると私は考えています。そのことについて具体的に以下に述べさせていただきます。

2. 北海道の「気（元気）」

漢方で最も大切な、基本的な概念である「気」についてお話ししましょう。「気」とは「目に見えない万物の根源的なエネルギー」のこと。動物も植物も、岩や水も、地球も宇宙も、すべて「気」の働きによって生まれたり消滅したりを繰り返して、活動しています。私たちの体は生まれつき持つ

ている「先天の気」と生まれた後に継続的に外から取り入れる「後天の気」によって生かされています。

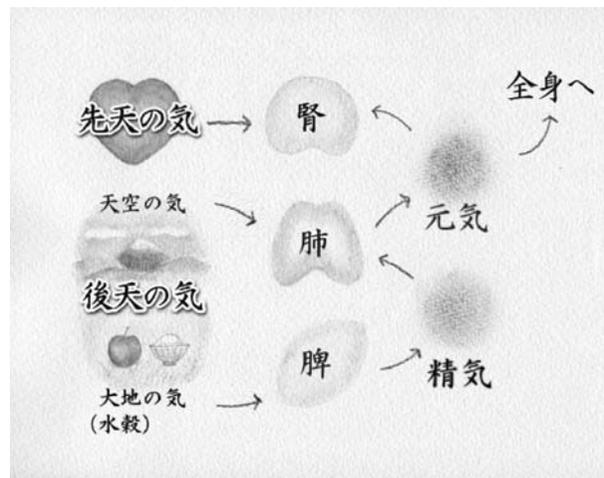


図 2 「気」の説明

「先天の気」は、腎に蓄えられていて、生まれてから少しずつ減っていき、完全に尽きた時が大地の土に還る時となります（ここで言う「腎」とは漢方医学の概念の「腎」であり、現代医学の「腎臓」とは異なります）。

「後天的気」には、「天空の気」と「水穀（大地）の気」があります。「水穀の気」とは飲食物のことで、口を通過して「脾」に入ります。「脾」とは現代医学の概念で言えば消化吸収器官のことです。脾は取り入れた水穀の気から生命活動に必要なもの（栄養）を濾しとります。これを「精気」といいます。

一方、「天空の気」とは空気のことです。鼻を通過して肺へ入ります。肺は取り入れた天空の気から生命活動に必要なもの（酸素）を濾しとり、そこに脾から送られてきた精気が合わさって生まれた「真気（元気）」を全身に送り出します。

良質な天空の気、良質な水穀の気をたっぷり取り入れれば、元気がたくさん生成され、「先天の気」が補われます。

自然破壊が進んでいるとはいえ、北海道の大地はまだまだ手つかずの自然が残り、植物たちの緑で覆われる日本でも数少ない大地です。ですから、訪れた人の多くは、五官を通して良質の「気」を取り入れて心からの笑顔になれるのでしょう。

地球に生きる植物とは、天空の気（太陽の光・空気）と大地の気（水・ミネラル）から緑色の体をどんどん作りだしていく存在ですから、植物たちこそが目に見える地球の元気なのでしょう。漢方と植物の修行をしていくうちに、いつからか私の中でそれは確信になりました。地球は植物エネルギーの星なのです。そして言うまでもなく私たちは、植物たちが作り出す緑の体と酸素なしには生きていけないのです。

高度に発達した物質文明の中で慌ただしく生きなければならない私たち人類にとって、あまり当たり前すぎてついつい忘れてしまっているだけなのでしょうが、今こそしっかりと胸に刻み直す時代なのだと思います。

3. 北海道の「食」も植物エネルギー

植物が豊富な大地と海からは当然の如くすばらしい旬の食材が生み出されます。

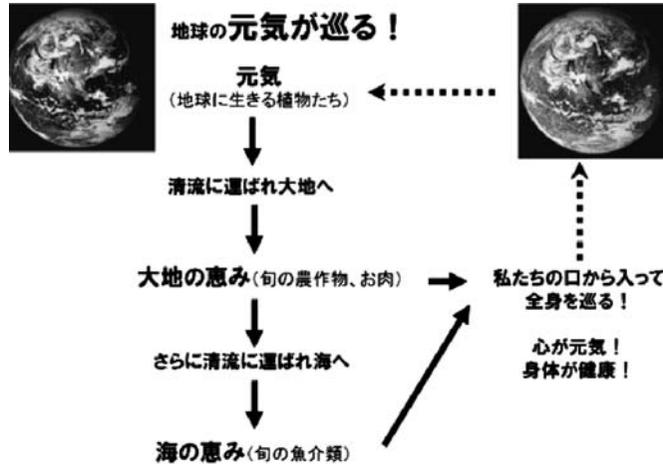


図 3 地球レベルでの植物エネルギーの循環図

植物たちの生み出す「気」(植物エネルギー)は、清流に運ばれ平地にやってきます。北海道内でも有数の農業生産地である十勝平野を例にとって説明しましょう。

十勝平野は日高山系と大雪山系の山々から植物たちの元気が注がれるすばらしい大地です。当然ながら十勝平野で生産された農作物と口から摂取し続けている十勝平野に生きる人たちも、独立心が高く発想力も豊かですから、そこで生産される農業生産物、加工品は、十勝ブランドとして全国的に名前が知られています。

さらには、日高山系と大雪山系の「気」は海にそそがれ、広尾町から襟裳岬一帯の海は毛ガニ、エゾバフンウニ、シシャモ、シャケ、マツカワ、ツブなどの魚介類が豊富な漁場として知られるところ です。

襟裳岬の漁師さんたちは自らが植林することによって、漁場を豊かにすることを実践してきました。60年以上の歳月をかけた襟裳岬の緑化事業はNHKのプロジェクトXでも取り上げられた有名なお話です。北海道の大地は、地球上に植物たちがいかに重要であるかを全国に伝えることのできる大地でもあります。

そして北海道に生きる私たちは、そんな旬の食材を感動という名の心の栄養素といっしょに、口から摂取することのできるすばらしい大地に生きていることを自覚しなければなりません。

そして地球レベルでの「気の巡り」(図3)を考えるならば、地球の恵みである旬の農作物、魚介類を口からいただいた以上、その感動をどのように地球にすばらしい形で還すのかも私たち自らが考え、行動しなければならぬ時代なのでしょう。

「お金を出せばなんでも手に入るし食べられる」という考えでは、地球全体の「気の巡り」が悪化し、今以上になんらかの形で私たちに悪影響を及ぼすことになるのではないのでしょうか。

4. 北海道の大地は漢方薬（理気薬）

漢方の最も基本で大切なことは「心身一如」(図4)の四文字で表すことができます。すなわち「心と身体は一つの如し」です。別の言葉を使えば「心が元気でならば身体は健康である」ということです。



図 4 心身一如とは

しかしながら、科学を基盤とする物質文明社会は、物質として科学で説明できる身体と科学で説明できない心のことを切り離して考えるようになりました。

高度に発達した科学を基盤とする社会こそが幸福な空間だとするならば、何故にうつ病の人たちが増え続け、さらには1年間に3万人以上の自らの命を絶つ人がいるのでしょうか。今こそ多くの日本人にとって「心を元気にする」クスリが必要な時代なのでしょう。

手つかずの自然が残り、明確な四季があって、旬の植物、景色、音、食材、いたる所にある数多くの温泉、そして毎日欠かすことのできない農産物、水産物を提供してくれる多くの人たちが生きるすばらしい大地こそが、「心を元気にする」クスリだと思います。

そして一過性でない本当の「心の元気」は自らが能動的に何かをした後に得られる「感動」によってのみ獲得できるものです。さらにその人にとって、明るい希望という心の光があってこそ、初めて前向きに生きる原動力になるはずです。

すなわち「心を元気にする」クスリとは、「大地に流れる生命エネルギー『気』を目、耳、口、鼻、肌の五官を通して能動的に取入れる」ことです。そしてそれは漢方での病氣予防の基本中の基本なのです。

漢方では、「気の巡り」を良くすることはとても大切なことで、「気の巡り」を良くしてくれる漢方薬のことを理気薬といいます。薬草で言えば紫蘇の葉（蘇葉）、温州ミカンの皮（陳皮）などがそうです。

そして「気の巡り」を良くしてくれるモノ＝理気薬とは、何も口から摂るものだけとは限りません。その人が五官を通して「すばらしい！」と感じる「感動」こそがその人にとっての「心を元気にする」理気薬（図5）であり、大自然の波動を五官で感じ、感動することは地球の元気を体内に取り入れることです。

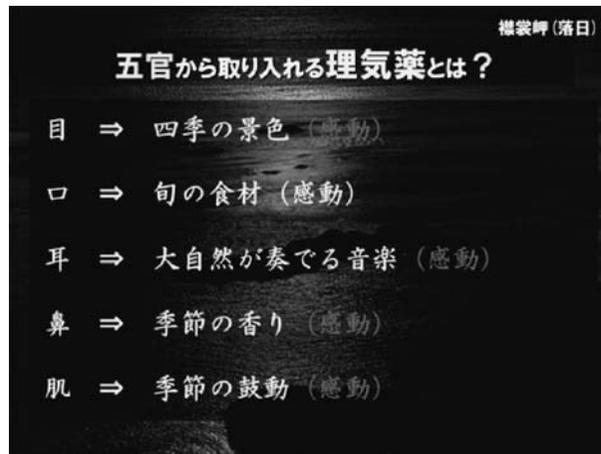


図 5 五官から取り入れる理気薬

ですから、感動の数が多ければ多いほど、その人の心の元気度はアップし、身体も健康になっていくということになります。そして、それが漢方の基本「心身一如」を実践していくことになるのです。

私のお伝えしたいことは、「北海道の大地が理気薬」そのものである、ということなのです。感動と言う名の理気薬をたくさん取り入れることのできる大地なのです。

植物たちの緑色のない大都会の中で一生懸命生きている人たちの、減っていく「心の元気」を補給できる大地、それが北海道なのです。

引用文献

北海道森林管理局 (2008)：襟裳岬の治山事業 <http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/policy/business/tisan/erimo/>

日本放送協会 (2001)：プロジェクト X 挑戦者たち Vol. 17 えりも岬に春を呼べ (DVD), NHK エンタープライズ, 東京.

山田光胤, 代田文彦 (2003)：図説 東洋医学〈基礎編〉学習研究社, 東京.